

## 七ヶ浜町農業委員会「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」

令和5年3月14日

七ヶ浜町農業委員会

### 第1 基本的な考え方

農業委員会等に関する法律（昭和26年法律第88号。以下「法」という。）の改正法が平成28年4月1日に施行され、農業委員会においては「農地等の利用の最適化の推進」が最も重要な必須事務として、明確に位置づけられました。

七ヶ浜町は、起伏の富んだ地形となっており、丘陵の上部の平地や緩斜面は畑、標高の低い平地は水田を主として利用されています。

町内の全耕作面積約133haの7～8割を占める水田では、基幹産業である米を中心に大豆等を組合わせた土地利用型農業を展開されており、こうした中で、地域の実態に応じた取り組みを推進し、農地利用の最適化に向けた対策の強化を図ることが求められています。

平成23年3月の東日本大震災以降、水田を中心に、営農を法人等の担い手に託す動きが見られ、水田については、平成25年から実施され令和3年11月に完了したほ場整備事業により、町内6地区（阿川・中田・下田・花渕・吉田・代ヶ崎）の水田が大区画化に整備されたため、担い手への農地集積・集約化が進んでいる一方、畑においては、農業従事者の高齢化等により、新たな遊休農地の発生が懸念されています。

また、全国的な課題である農業従事者の高齢化や後継者不足については、本町でも深刻さを増している状況のため、担い手への農地利用の集積・集約化を図るための「地域計画」（農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案（令和4年法律第56号）による改正後の農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。以下「改正基盤法」という。）第19条第1項の規定に基づき、町が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図などを明確化し、公表したものをいう。）に基づいて農地中間管理事業を活用した利用調整に取り組んでいく必要があります。

以上のような観点から、地域の強みを活かしながら、活力ある農業・農村を築くため、法第7条第1項に基づき、農業委員の活動を通じて「農地等の利用の最適化」が一体的に進んでいくよう、七ヶ浜町農業委員会の指針として、具体的な目標と推進方法、目標の達成状況に対する評価方法等を以下のとおり定めます。

なお、この指針は、改正基盤法第5条第1項に規定する宮城県の農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針及び改正基盤法第6条第1項に規定する七ヶ浜町の農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想を踏まえた農業委員会の長期的な目標として10年後に目指す農地の状況等を示すものであり、農業委員及び推進委員の改選期である3年ごとに検証・見直しを行います。

また、単年度の具体的な活動については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」（令和4年2月2日付け3経営第2584号農林水産省経営局長通知、令和4年2月25日付け3経営第2816号農林水産省経営局農地政策課長通知）に基づく「最適化活動の目標の設定等」のとおりとします。

## 第2 具体的な目標、推進方法及び評価方法

### 1. 遊休農地の発生防止・解消について

#### (1) 遊休農地の解消目標

|                    | 管内の農地面積(A) | 遊休農地面積(B) | 遊休農地の割合(B/A) |
|--------------------|------------|-----------|--------------|
| 現 状<br>(令和5年3月)    | 147 h a    | 1.5 h a   | 1%           |
| 3年後の目標<br>(令和8年3月) | 147 h a    | 0.9 h a   | 0.6%         |
| 目 標<br>(令和13年3月)   | 147 h a    | 0 h a     | 0%           |

#### (2) 遊休農地の発生防止・解消の具体的な推進方法

##### ① 農地の利用状況調査と利用意向調査の実施について

- 農業委員の担当制又はチーム制による農地法（昭和27年法律第229号）第30条第1項の規定による利用状況調査（以下「利用状況調査」という。）と同法第32条第1項の規定による利用意向調査（以下「利用意向調査」という。）の実施について協議・検討し、調査の徹底を図る。それぞれの調査時期については、「農地法の運用について」（平成21年12月11日付け21経営第4530号・21農振第1598号農林水産省経営局長・農村振興局長連名通知）に基づき実施する。

なお、従来から農地パトロールの中で行っていた、違反転用の発生防止・早期発見等、農地の適正な利用の確認に関する現場活動については、利用状況調査の時期にかかわらず日常的に実施する。

- 利用意向調査の結果を踏まえ、農地法第34条に基づく農地の利用関係の調整を行う。
- 利用状況調査と利用意向調査の結果は、速やかに「農業委員会サポートシステム」に反映し、農地台帳の正確な記録の確保と公表の迅速化を図る。

##### ② 農地中間管理機構との連携について

- 利用意向調査の結果を受け、農家の意向を踏まえた農地中間管理機構への貸付け手続きを行う。

##### ③ 非農地判断について

- 利用状況調査によって、再生利用が困難と区分された農地については、現況に応じて「非農地判断」を行い、守るべき農地を明確化する。

#### (3) 遊休農地の発生防止・解消の評価方法

遊休農地の発生防止・解消の進捗状況は、遊休農地の割合により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

## 2. 担い手への農地利用の集積・集約化について

### (1) 担い手への農地利用集積目標

|                    | 管内の農地面積(A) | 集積面積(B)   | 集積率(B/A) |
|--------------------|------------|-----------|----------|
| 現 状<br>(令和5年3月)    | 147 h a    | 95.5 h a  | 64.9%    |
| 3年後の目標<br>(令和8年3月) | 147 h a    | 109.3 h a | 74.3%    |
| 目 標<br>(令和13年3月)   | 147 h a    | 132.3 h a | 90%      |

※ 宮城県の基本指針及び町の基本構想に基づき、令和12年度末までの集積率の目標を90%に設定した。

集積面積は、七ヶ浜町内の認定農業者（7経営体）が所有権等に基づき耕作している農地の合計面積を記載した。

### 【参考】担い手の育成・確保

|                    | 総農家数<br>(うち、主業農家数) | 担い手      |          |               |                          |
|--------------------|--------------------|----------|----------|---------------|--------------------------|
|                    |                    | 認定農業者    | 認定新規就農者  | 基本構想水準<br>到達者 | 特定農業団体<br>その他の集落<br>営農組織 |
| 現 状<br>(令和5年3月)    | 65戸<br>(18戸)       | 7<br>経営体 | 0<br>経営体 | 0<br>経営体      | 0<br>団体                  |
| 3年後の目標<br>(令和8年3月) | 60戸<br>(18戸)       | 7<br>経営体 | 1<br>経営体 | 0<br>経営体      | 0<br>団体                  |
| 目 標<br>(令和13年3月)   | 52戸<br>(15戸)       | 8<br>経営体 | 2<br>経営体 | 0<br>経営体      | 0<br>団体                  |

※1 「総農家数（うち、主業農家数）」は、2020年農林業センサスの数値を記入。

農林業センサス2015と2020の比較により、農家数は次のとおり推移すると予想。

総農家数は、5年間で7戸減少しているため、1年間の減少戸数を2戸と予想した。

主業農家数は、過去5年間で9戸減少している。

これは、東日本大震災以降に農地を担い手に託す動きが多く見られる事に起因していると考えられるが、町内の水田については集積・集約化が進んでおり、今後の減少数は緩やかになると思われるため、令和13年3月までに3戸減少と予想した。

※2 認定新規就農者は過去5年間で0名のため、令和13年3月末までに2経営体を確保する目標とした。

「担い手の育成・確保」の数値は、「担い手への農地利用集積目標」を定めるための参考値のため、上記の参考値は「地域計画」等の見直しに当たっても活用する。

※3 目標数値は、担当部局と調整の上記入した。

## （２）担い手への農地利用の集積・集約化に向けた具体的な推進方法

### ① 「地域計画」の作成・見直しについて

- 農業委員会として、地域（１集落又は数集落）ごとに人と農地の問題を解決するため、10年後の農業の在り方と農地利用の将来像を描く「地域計画」の作成と見直しに主体的に取り組む。

### ② 農地中間管理機構等との連携について

- 農業委員会は、町、農地中間管理機構、農協等と連携し、（ア）農地中間管理機構に貸付けを希望する復元可能な遊休農地、（イ）経営の廃止・縮小を希望する高齢農家等の農地、（ウ）利用権の設定期間が満了する農地等についてリスト化を行い「地域計画」の作成・見直し、農地中間管理事業の活用を検討するなど、農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを行う。

### ③ 農地の利用調整と利用権設定について

- 管内の地域の農地利用の状況を踏まえ、担い手への農地利用の集積が進んでいる地域では、担い手の意向を踏まえた農地の集約化のための利用調整・交換と利用権の再設定を推進する。

また、農地の区画・形状が悪く、受け手が少ない又は受け手がない地域では、農地中間管理機構による簡易な基盤整備事業の活用と併せて集落営農の組織化・法人化、新規参入の受入れを推進するなど、地域に応じた取り組みを推進する。

### ④ 農地の所有者等を確知することができない農地の取扱い

- 農地の所有者等を確知することができない農地については、公示手続を経て農地中間管理機構を通じて利用権設定ができる制度を活用し、農地の有効利用に努める。

## （３）担い手への農地利用の集積・集約化の評価方法

担い手への農地利用の集積・集約化の進捗状況は、農地の集積率により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

### 3. 新規参入の促進について

#### (1) 新規参入の促進目標

|                    | 新規参入者数（個人）<br>（新規参入者取得面積） | 新規参入者数（法人）<br>（新規参入者取得面積） |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| 現 状<br>（令和5年3月）    | 0人<br>（ 0 h a ）           | 0法人<br>（ 0 h a ）          |
| 3年後の目標<br>（令和8年3月） | 1人<br>（ 3 h a ）           | 0法人<br>（ 0 h a ）          |
| 目 標<br>（令和13年3月）   | 2人<br>（ 10 h a ）          | 0法人<br>（ 0 h a ）          |

※現状の担い手農家の数等を考慮し、令和12年度末までに2経営体を確保する必要があると試算した。

#### (2) 新規参入の促進に向けた具体的な推進方法

##### ① 関係機関との連携について

- 宮城県・全国の農業委員会ネットワーク機構、農地中間管理機構等と連携し、管内の農地の借入れ意向のある認定農業者及び参入希望者（個人、法人）を把握し、必要に応じて現地見学や相談会を実施する。

##### ② 新規就農フェア等への参加について

- 町担当課、農協等と連携し、農業委員が新規就農フェア等に積極的に参加することで新規就農希望者の情報収集に努め、新規就農の受入れとフォローアップ体制を整備する。

##### ③ 企業参入の推進について

- 担い手が不足している地域では、企業の農業参入も地域の担い手確保の有効な手段であることから、農地中間管理機構も活用して、積極的に企業の参入の推進を図る。

##### ④ 農業委員会のフォローアップ活動について

- 農業委員は、新規参入者（個人、法人）の地域の受入条件の整備を図るとともに、後見人等の役割を担う。

#### (3) 新規参入の促進の評価方法

新規参入の促進の進捗状況は、新規参入者（個人、法人）の数により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

### 第3 「地域計画」の目標を達成するための役割

七ヶ浜町において作成された「地域計画」に基づき、農地を効率的かつ総合的に利用していくため、七ヶ浜町農業委員会は次の役割を担っていく。

- ・ 日常的な農地の見守りによる農地の適正利用の確認
- ・ 農家への声掛け等による意向把握
- ・ 「地域計画」で位置付けられた担い手への農地の利用調整やマッチング
- ・ 農地中間管理事業の活用の働きかけ
- ・ 「地域計画」の定期的な見直しへの協力